

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	690	穀類施設運営経費	会計	01	一般会計
基本施策	43	伊賀ブランドの価値を高め、売り出す。	款	06	農林業費
担当部課名	産業振興部 農林政策課		項	01	農業費
作成者氏名	光岡 菊郎	連絡先	目	03	農業振興費
			細目	107	伊賀米等生産振興対策事業
			細々目	02	穀類施設運営経費

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)			
	JA大豆共同利用施設 大豆生産農家	生産調整による水田大豆の高品質で高収益性のある「フクユタカ」の貯蔵施設の効果的な運営を図ります。 品質の均質化を図り、安定的生産流通及び大豆利用の向上に資することができます。			
本年度事業内容	伊賀ライスセンター大豆共同利用施設運営助成金				
開始年度	平成 14 年度	終了年度	平成 18 年度	根拠法令・要綱等	産業振興部関係補助金交付要綱

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	0.05	0.05	
	人件費合計(A)	360	360	0
②支出内訳(千円)	事業費(B)	3,600	3,600	0
	負担金、補助	3,600	3,600	
	その他			
	合計(A+B)	3,960	3,960	0
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金			
	地方債			
	受益者負担			
一般財源	3,960	3,960	0	
上記①～③に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
施設利用農家数	戸	253	270	270			
施設利用数量	t	402	450	450			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
施設利用数量	生産調整に係る品目横断的経営安定対策の推進を図ため、施設利用数量が主要指標となります。	t	402 目標 ( 450 )	450	450
			目標 ( )		

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

天候に左右されるものの生産数量が増え、高品質の大豆生産が行われるようになりました。平成19年度からの政策改革に対応した生産量の確保が重要でありますほか、共同利用施設運営の効率化と適正な維持管理が必要です。

評価	必要性	4	期限付き助成であるものの利用数量の増嵩がみられました。	総合評価
	有効性	4		
	達成度	4		
	効率性	3		
				A